

東海道五十三次を往く

第14回

2016年にスタートした東海道五十三次プロジェクト。今回は、18番目の宿場、江尻宿をご紹介します。

江尻宿

海上輸送の要衝としてにぎわった宿場町



広重が描いたのは、景勝地、三保の松原越しに、遠く伊豆半島を望む駿河湾の風景。その駿河湾に注ぐ巴川の砂洲上に作られた江尻宿は、古くは武田信玄公が築いた江尻城の城下町として栄え、江戸時代には海上輸送の拠点清水港を有すにぎやかな宿場となった。往時の建造物はほとんど焼失し、街道も舗装されているが、石碑や案内板が多く、歴史を学びつつ歩くことができる。

寺尾本陣跡・西木戸跡

木戸と木戸の間は約2km。宿場には、本陣と脇本陣が各3軒、旅籠が約50軒立ち並んでいたという。



旧東海道の街並み

道は舗装され、幅も広い。旧街道の商店街には、昔ながらの店も多く、レトロな雰囲気をしみつつ散策できる。



巴川 巴川の砂洲上にある江尻宿。広重は東照宮のある久能山からの風景を描いたため、街道から同様に駿河湾を一望することはできない。

稚児橋

慶長12(1607)年、徳川家康の命により巴川に架けられた。橋の下に童(河童)が現れたことから「稚児橋」と呼ばれ、その伝説にちなみ、周辺には河童の像が設置されている。



魚町稲荷神社

江尻城の城将だった穴山梅雪が社殿を造営したとされている。敷地内には、少年サッカー発祥の地として建てられたサッカーボールの碑があり、市民から愛されている。



追分道標 旧東海道と清水道の分岐点には、立派な追分道標がある。その脇に立つ老舗、追分羊かん本店は、赤い日よけ暖簾が目印。



おみやげ

追分羊かん・きざみ栗羊かん

1袋各1,050円
創業元禄8(1695)年の老舗。昔ながらの製法で丁寧に作られる竹皮包みの羊かんは、口にすれば上品な甘さと、ほのかな竹の香りを楽しめる一品。全国発送も可。

追分羊かん本店

静岡市清水区追分2-13-21
☎054-366-3257
☎8時30分〜16時30分 休日曜
<http://www.oiwakeyokan.com/>



旧東海道沿い、静岡鉄道狐ヶ崎駅から徒歩約1分立つ、創業180余年の老舗割烹料理店。純和風の趣きある個室で、ゆっくりと食事を楽しむことができる。写真はコースの一部。

割烹 芳川

静岡市清水区上原1-2-20
☎054-345-7522
☎10時〜22時(最終入店20時) 休火曜
<https://www.kappouyoshikawa.net/>



平日ランチ限定の御膳(2,900円)は2カ月ごとにメニューが変わる。



TOPIC

富士山を望む、絶景クルーズ

清水港内を1周するクルーズ(35〜45分間)とJR清水駅(江尻)〜日の出〜三保棧橋を結ぶ水上バスがある。晴れた日には、海上より雄大な海と富士山の絶景を楽しめる。江尻宿を訪れた際は、水上バスを活用して、世界文化遺産 富士山の構成資産である三保松原まで、ぜひ足を延ばしたい。

清水港ペイクルーズ・水上バス

静岡県清水区日の出町10-80 マリンターミナル3F
☎054-353-2222 電話受付時間/9時〜17時30分
<http://www.dream-ferry.co.jp>



清水港ペイクルーズ(イメージ)

